



2025年4月28日

各 位

会 社 名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 本多 弘明
(東証スタンダード・コード 7162)
問合せ先 執行役員 西潟 しのぶ
電話 03-5447-8400

2025年3月期連結業績速報値と2024年3月期連結業績との差異見込みに関するお知らせ

2025年3月期の連結業績は、2025年5月15日（木）に開示の予定ですが、決算の概要がまとまりましたので、下記のとおり速報値としてお知らせいたします。なお、速報値につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は速報値と異なる可能性があります。

この結果を受け2025年3月期（2024年4月1日～2025年3月31日）と2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）の業績に差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。
各セグメントの概要説明は、5月15日に開示する2025年3月期決算短信にてお知らせいたします。

記

1. 2025年3月期連結業績速報値（2024年4月1日～2025年3月31日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2025年3月期 連結業績速報値	20,666	△176	△146	△146
2024年3月期 連結業績（実績）	14,855	679	512	445
増減率（%）	39.1	—	—	—

※ 当連結会計年度の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響は以下のとおりです。

当連結会計年度末を越えて受渡しが行われる電力現物先渡取引は時価評価の対象ではありませんが、当該取引をヘッジする目的で行う電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価の対象となります。

電力先物取引のうち、一部取引所では取引所の規定によって3か月以上の期間のポジションは期末が近付いた段階で決済され、より短い期間の新たなポジションに分割されます。これに伴う決済損失148百万円（純額①-1）と、当連結会計年度末を越えて限月を迎える電力先物取引の時価評価益8百万円（純額①-2）は、当連結会計年度末を越えて受渡しが行われる電力現物先渡取引と同一の会計期間に認識されないため、純額では当連結会計年度の営業収益を押し下げ、電力取引関連事業のセグメント利益を減少させる要因となっております。

一方、同様の理由で、当連結会計年度に受渡しが行われる電力現物先渡取引をヘッジする目的で行われた電力先物取引に係る前連結会計年度に認識された決済損失10百万円（純額②-1）及び時価評価損24百万円（純額②-2）は当連結会計年度の営業収益を押し上げ、電力取引関連事業のセグメント利益を増加させる要因となっております。

上記①と②を総合すると、結果として当連結会計年度の営業収益とセグメント利益はそれぞれ合計104百万円（104=148-8-10-24）押し下げられております。

なお、前連結会計年度（2024年3月期）の電力取引関連事業の営業収益とセグメント利益はそれぞれ合計198百万円（198=-10-24+75+158）押し上げられておりました。

2. 2025年3月期連結業績速報値と2024年3月期連結業績との差異の理由

当連結会計年度は、中期ビジョン2025の最終年度であり、定量目標に向けてグループ一丸となって取り組んでまいりましたが、最終的に5事業のうち2事業がセグメント損失となり、3事業のセグメント利益で賄うことができず、全体としては電力取引関連事業と小売事業により前年比大幅増収となったものの、誠に遺憾ながら最終赤字となりました。

最終赤字となった主な要因は、ディーリング事業において、第1四半期連結会計期間は順調に利益を計上した一方、長期保有目的で構築した裁定取引における市場の歪みが当社の想定を超えて拡大したことにより第4四半期連結会計期間において大幅な評価損失を計上したこと、また電力取引関連事業において、上記「1」の※にて補足説明の押し上げ押し下げ要因（前連結会計年度は営業収益及びセグメント利益は198百万円押し上げられていましたが、当連結会計年度は104百万円押し下げられている）があったことに加え、電力取引の流動性を高めるため取引量を増加させたことにより営業収益が大幅に増加した一方、取引手数料の増加や取引当たりの収益性が低下したこと等から減益となり、大きな差異が発生しました。

以上